

問い合わせ先
第八管区海上保安本部
広報地域連携室
左近 実 ・ 寺井 雄
電話 0773 - 76 - 4100 (内線 2111・2117)



平成28年3月24日
第八管区海上保安本部

シーズン間近！プレジャーボート事故に注意！！

～ ミニボート事故、八管区は全国最多 ～

過去5年間に発生した船舶事故のうち、プレジャーボートの占める割合は八管区が最高。またミニボートの事故隻数も全国最多。

マリンレジャー活動が活発になる時期を迎え、例年プレジャーボート事故が増加。特に、冬場等あまり使用していなかったボートを久しぶりに動かすような場合には、機関故障やバッテリー上がりなどに注意が必要。

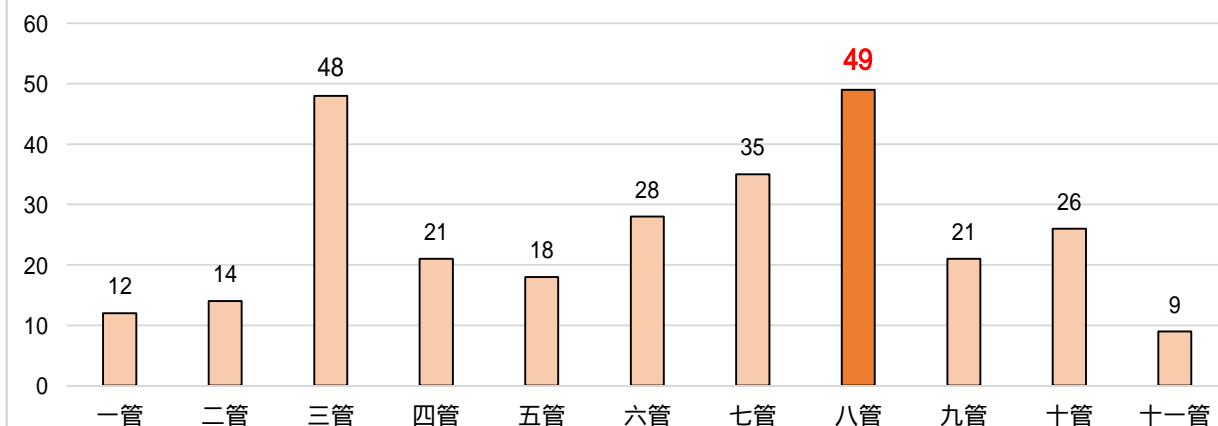
プレジャーボートを安全に楽しむために、シーズン前整備と発航前点検等の確実な実施を!!

1 プレジャーボート事故の傾向

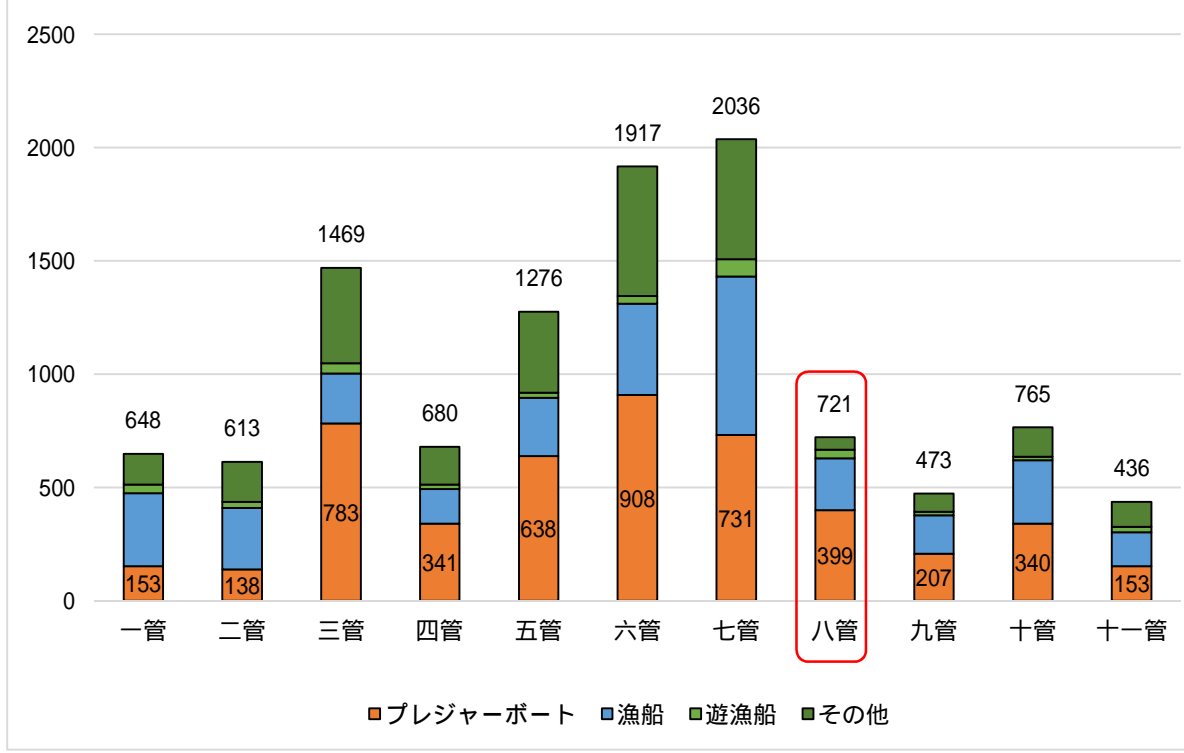
(1) 八管区内において過去5年(平成23～27年)に発生した船舶事故を船種別に見ると、全体の8割以上が小型船舶の事故であり、特にプレジャーボートの事故については全体の5割以上を占め、全管区の中でも八管区が一番高い割合となっています。

また、ミニボートの事故隻数は、全国最多となっています。

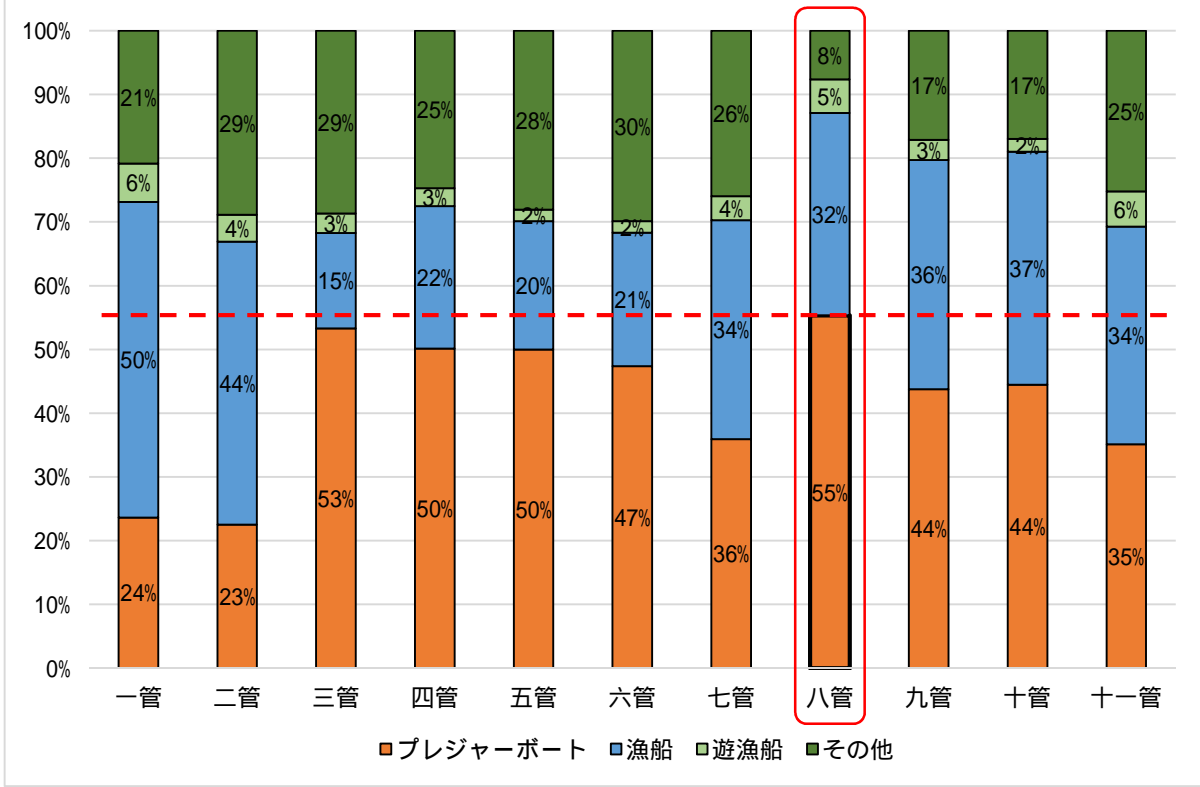
ミニボート事故隻数(全管区 過去5年)



船種別事故隻数 (全管区 過去5年)

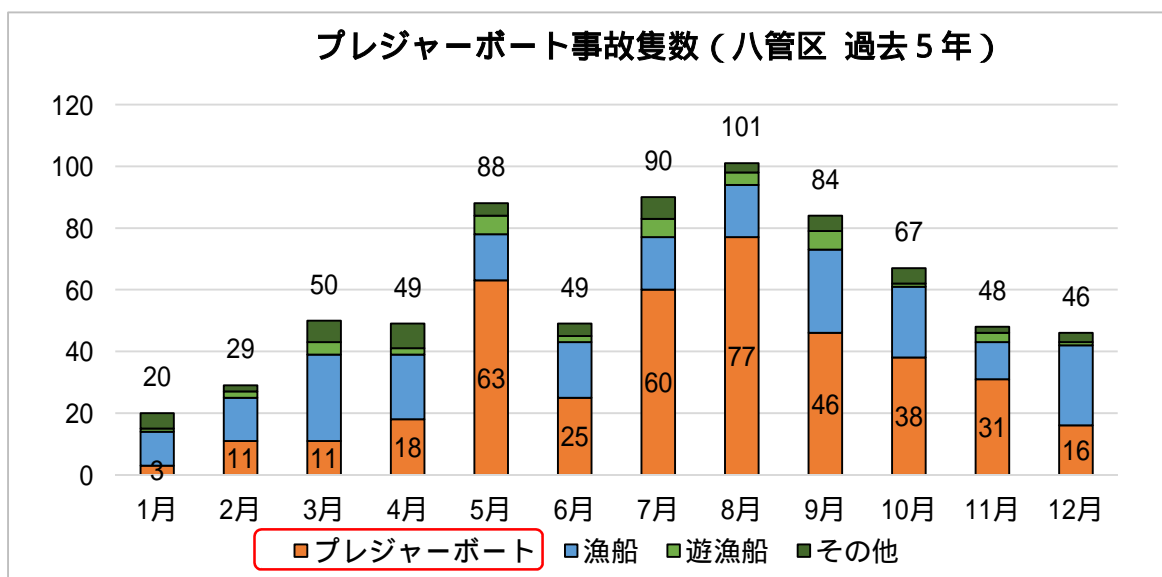


船種別事故隻数比率 (全管区 過去5年)

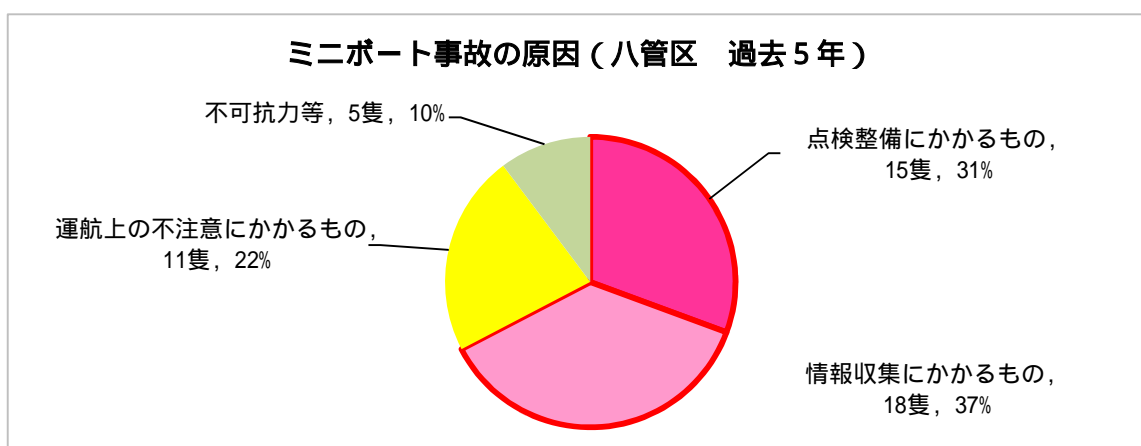
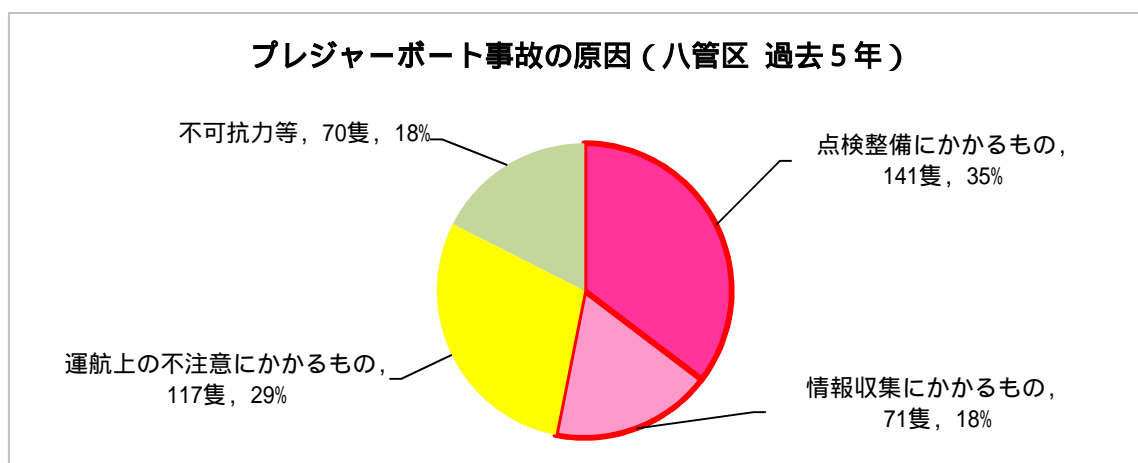


(2) 八管区内における過去5年(平成23~27年)のプレジャーボートの事故隻数を月別に見ると、春から秋にかけて事故が多く発生しています。

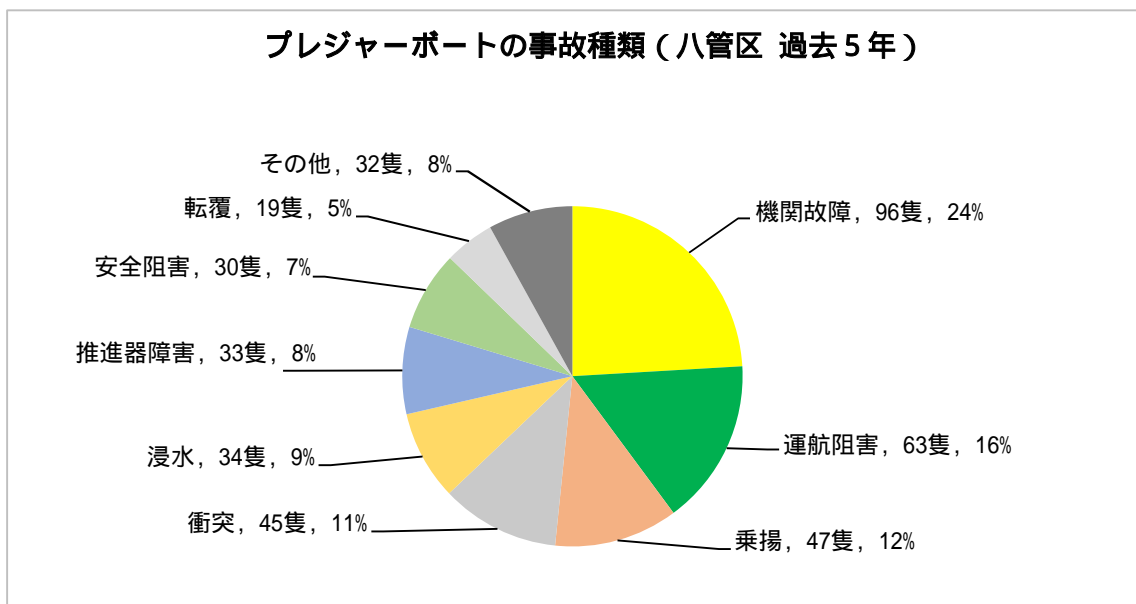
5月は4月と比べると約3倍となるなど、GW期間を始め、特に5月以降に大きく増加する傾向があります。



(3) 八管区内における過去5年(平成23~27年)のプレジャーボートの事故原因を見ると、準備の不足によるもの(点検整備の不足、気象や海域等の情報収集不足)が5割以上を占めています。また、ミニボートについて見ると、その割合は約7割に上ります。



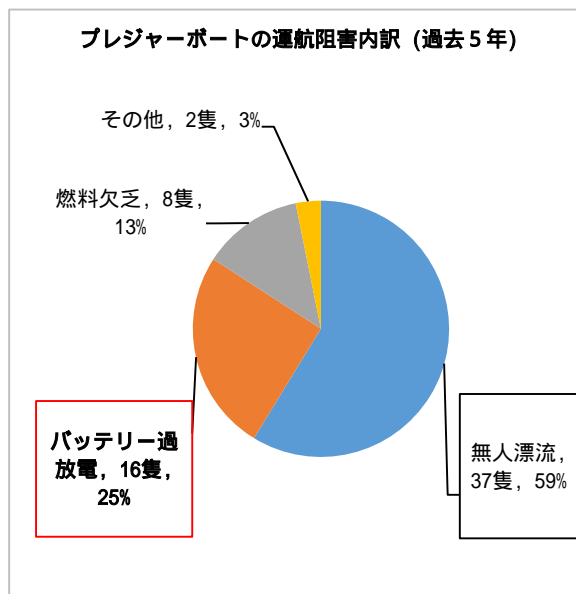
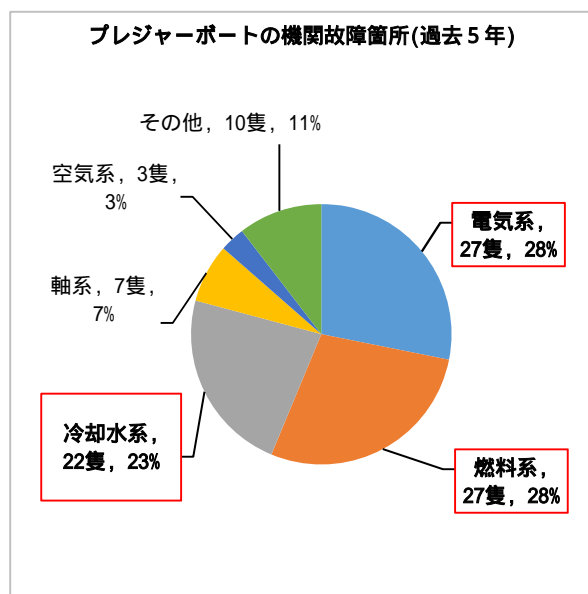
(4) プレジャーボート事故の種類を見ると、「機関故障」「運航阻害(バッテリー過放電、燃料欠乏、無人漂流等)」「乗揚」の順で割合が高くなっています。



(5) プレジャーボートの機関故障について故障箇所を見ると、電気系、燃料系、冷却水系が全体の約8割を占めています。

また、運航阻害のうち、バッテリー過放電では、シーズン始めや運航前に十分に充電せずに出港したケースのほか、バッテリーの寿命を超えて使用していたケースもありました。

無人漂流では、係留中のボートが係留の不備のほか、係留索の切断により流出する事故も多く発生しています。



2 事故防止のために特に注意すべき事項

マリンレジャーシーズンを迎え、安全に、安心してプレジャーボートで海を楽しむために、特に次の事項に注意してください。

(1) 事前の点検整備（普段の定期点検、通常整備）

- ・バッテリーの充電、定期交換
- ・冷却水ポンプのインペラなど部品の点検、定期交換
- ・冷却水や燃料経路の詰まりや漏れなどの点検 等

(2) 発航前点検（出港前の点検）

- ・エンジン始動前の船体や機関の点検
- ・エンジンのオイル漏れや冷却水の循環状況の確認 等

(3) その他

出港前準備・海上における情報収集

例年5月頃までは天候の安定しない日も多く、気象が急変することがあるので、出港前はもとより、海上においてもこまめに気象情報を収集する。（MICSの活用）

活動海域の事前確認

事前に航行予定海域の定置網の設置状況や工事作業の有無などの情報を収集する。（MICSの活用）

自己救命策の確保

衝突や乗揚を防止するため、船上における見張りを徹底するとともに、万が一に備えて、ライフジャケットを着用するなど自己救命策を確保する。

入港後の点検整備

入港後は、エンジン冷却水経路や船体の真水洗いや防錆処置など、次回の運航に備えた整備を行うとともに、係留索の点検を実施して係留状況を確認するなど、船体の流出に注意する。